APTT	238000
	担当部署
APTT	血液

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→血液学→
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		検体採取量の不足では延長傾向を示す。 ・検体採取量の過多では短縮傾向を示す。 ・Ht の高い検体では血漿の割合が減り延長傾向を示す。 ・Ht の低い検体では血漿の割合が増え短縮傾向を示す。 ・ヘパリンの混入では延長傾向を示す。 ・組織液の混入では短縮傾向を示す。 ・室温放置 4～6 時間では約 10%程度延長する。（特に延長傾向にある検体で著しい。）
検査受付時間		緊急対応（24 時間）

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	空腹時静脈から採血し、気泡、溶血及び組織トロンボプラスチンの混入を防ぐ。 添付文書より
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	2 黒小	3.2%クエン酸 Na	1.8	mL
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1）採取容器違いの検体 2）凝固検体 3）採血量過不足の検体 4）サンプリングできない検体
保管検体の保存期間	室温・当日中（追加検査については、検査室に要問合せ）

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	当日中
生物学的基準範囲	24～40 秒 EX 共通 CL1084：「三輪血液病学　2006」
臨床判断値	設定なし

基準値				単位	sec
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
25	35	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	設定なし
	低値	設定なし
生理的変動要因		特記事項なし
臨床的意義		APTT は、内因系凝固経路に関わる第Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、ⅩⅠ、ⅩⅡ因子のすべてと、接触因子である高分子キニノゲン（HMWK）、プレカリクレイン(PK)、の異常を検出可能である。血友病を代表とする遺伝性凝固因子欠乏症や肝機能障害の診断に用いられるが、ループスアンチコアグラント(LAC)の検出やヘパリン治療のモニタリングにも不可欠な検査である。 EX 共通 CL1084：「三輪血液病学　2006」1978